

# シン破天荒

## 山崎編



令和七年度より  
創刊  
第 7 号

保護者にも見せてくださいね

体育大会も終わりました  
いよいよ自分達の進路と真剣に向き合っています  
向き合っている進路と真剣に向き合っています

八十回生の二学期も一か月があつという間に過ぎました。先週の体育大会では運動の得手不得手に関係なく、行事を十分に満喫しましたか。

結果や成果は然ることながら、一番大切なことが自分を出し切る「取り組み」であることを、今回もこの先も、自分の行動の原点に持つてもらえることを願います。

さて、山崎高校生として皆さんに課されることは「時の流れ」と同じように、次から次へと押し寄せてきます。

自分の苦手なことは、つい「後回し」にしたり、「不要」と捉えたりしがちですが、「十六歳」のいまの皆さんには気付かない、視界から避けがちな景色が、実は将来の「後悔」というブルーメランで返ってくることを、私たちは経験しています。

この「苦い」経験は、決して悪いものではないのですが、経験者である私たちは、ついこの「苦さ」を経験しなくていいように、前もって「回避」する道を用意したり、耳の痛い「忠告」を繰り返したりしてしまします。

できるならば、そういった「苦言」を自分のためだと捉えることができれば、自分の知らない世界であつても、自分の進路の可能性を探る一助になるのではと思います。

今週のLHRで、進路選択についての学年集会がありました。選択科目については「好き嫌い」や、今の時点での「要不要」などで選択するのではなく、本当に「自分の将来のため」という考えの元、覚悟を持って、真剣な選択をしてほしいものです。

なお、来る十月十一日土曜日に、保護者の方にも、皆さんに話した内容をベースに、類型選択説明会を実施します。進路選択の内容をよく理解し、家庭で共有しておいてもらいたいと思います。

## 職員室の とあるコーナーより

楽な人生と

楽しい人生は

違うよ

## 十月の予定

- 二 日(木) 教育相談
- 十一 日(土) 類型説明会
- 十三 日(月) スポーツの日(祝日)
- 十四 日(火) ～十七 日(金) 中間考査
- 十七 日(金) いじめアンケート
- 十八 日(土) 氷ノ山登山(教育類型)
- 十九 日(日) 氷ノ山登山(予備日)
- 二十四 日(金) 教育相談
- 二十四 日(金) 漢字検定
- 二十四 日(金) ～三十 日(木) 図書館イベント

## 十一月の予定

- 一 日(土) ベネッセ総合学力テスト
- 三 日(月) 進路マップ
- 三 日(月) 文化の日
- 四 日(火) ～十日 オープンスクール
- 七 日(金) 教育相談
- 十二 日(水) 芸術鑑賞会(山崎文化会館)
- 十四 日(金) 教育相談
- 二十一 日(金) ストープ設置 教育相談
- 二十二 日(土) 山高街の駅③
- 二十三 日(日) 勤労感謝の日 もみじ祭り
- 二十四 日(月) 振替休日
- 二十五 日(火) ストープ使用開始
- 二十八 日(金) 教育相談

## 岡山大学 訪問について

九月早々に調査した岡山大学訪問(十二月十二日実施予定)について、三十人の定員に対して二十四人の申込みがありました。

未知の空間から自分の進路に活かすことができる何かを掴んでくれることを期待したいものです。若千の空きもあります。興味を持った人は相談をしてもらえたらと思います。

## 学びの機会を 増やしましょう

ということ、体育大会も終わったので、自主的に勉強する機会と場を設けてみようと思います。できれば、毎週金曜日の放課後に一学年フロアのどこかの教室を会場にしようと思います。

例えばバス待ちの時間であったり、部活動の急な休みの時間などを利用して、自身の主体的な学習に取り組んでみませんか。

「させられる勉強」は持続性がありません。この先、皆さんが大切にしないといけないのは「小さいことを積み重ねる、最初の一步を出す勇気を育てる」ことです。

様子を見て、教材も用意していこうと思います。八十回生のみなで「自らの進路を切り拓く空間」を育ててみませんか。

できる限り早く、スタートの案内をしたいと思います。いましばらく待ってください。

## 山高街の駅② くにも祭り

九月二十三日、火曜日秋分の日に「山高街の駅」の行事の一環で一年生は生徒会役員が、くにも祭りに参加をしました。



ようやく少し涼しくなってきたとはいえ、暑い中で参加、ご苦労様でした。



地域と連携して山崎高校生が活動する姿は、地域にも、本校にも、大きな力、支援、応援をもたらします。これから是非積極的にこのような行事に参加してもらいたいですね。



あつ、校長先生。

以下、参加した生徒の感想です。

### ・主にした仕事 沢蟹レース

くにも祭りに今回初めて参加したのですが、想像以上に活気のある祭りで楽しかったです。レースでは、主にルール説明や実況をしていましたが、どうすれば見に来てくださるかを一番に考え、来てくださった人たちが、最大限楽しんでもらえるようにできたと思います。今回で学んだ「相手に何をしてもらえれば喜んでくれるか」を考えることを大切にしたいと思います。

### ・主にした仕事 ピザ準備・受付等

今年はスーパのピザの生地を買っていたけれど、去年はピザの生地から作っていたらしくてすごいなと思いました。ピザのトッピングをする野菜やベーコンを朝早くから準備をしていたと聞いて、今年はありがたいなと思いました。最後にピザを作って食べさせてくれました。窯で焼いたピザもとてもおいしかったです。

### ・主にした仕事 ゲームコーナーの手伝い

こういう祭りの無料ゲームコーナーは、あまり人が集まらないイメージがあったけれど、想定のお三倍の参加者が来てびっくりした。僕は釣りゲームを担当して、「こうしたら釣りやすいよ」というふうに教えたりした。疲れたけれど、地域の子供たちと交流したりして楽しかった。今後、また貴重な経験ができるときには、積極的に参加したい。

引率された山本先生が、学校での教育活動では見ることのできない生徒の「表情」を、どの学年の生徒からもうかがえたことが、大変大きな収穫であつたと仰っていました。やはり、私たち教師はいつになっても、生徒たちの生き生きとした顔を見ることが、日々の喜びとなり、頑張る原動力となることが再確認できました。生徒の皆さんも、日々のささやかな喜びを大切にしましょうね。

## 今月の出会い

九月第二週の土曜日に、練習の合間に最上山公園を目指して、ウォーキングをしました。最上山を甘く見ていましたが、前方を歩かれていた老夫婦の姿に励まされながら、篠の丸城跡登山口まで頑張りました。

老夫婦には「あれ、上まだあるよ」とお声掛けを頂きましたが、「初心者なので心積りをして次回」と今回は妥協しました。

そして、最上山公園を目指し下り始めたところに前方から何となく見覚えのある方が・・・。

思わず「失礼ですが、〇〇先生では」と。

その方は、私が初任の頃に山崎高校で陸上競技部顧問をされていた方で、西播地区でお世話になった先生でした。

何年ぶり、いや、二十五年は過ぎた再会だったと思います。現在も山崎町にお住まいで、最上山公園周辺を毎日散歩されているとのこと。昔話とともに当時練習されていたコースなどを案内して下さい、いまなお、勤務された学校を応援してくださる姿に感動しました。

現在我が部は三人の部員ですが、その日の練習後のミーティングで、旧き良き再会を話しました。

因みに、六月に教育実習で母校で教鞭をふるった小川晴也先生は、十月十三日に開催される、第三十七回全日本大学選抜駅伝競走出雲駅伝に、中四国学連選抜代表として、二年連続で出走する予定です。中間考査前ではありますが、是非テレビの前で応援してあげてください。

皆さんの側には、全国レベルで活躍されている方が多くいます。裏を返せば、皆さんが全国レベルの活躍も十分な資質があるということを理解してください。

あとは、「欲」と「逃げない心」や「信じる心」を持って、「努力する」勇気を持つことです。今月には、こんな出合いを山崎高校が与えてくれました。



# 体育大会

雨のため順延を余儀なくされた体育大会でしたが、九月二十六日金曜日、やや曇天の中ではありましたが、令和七年度山崎高等学校体育大会が実施されました。

うまくテンションを上げながら上級生の流れに乗りながら八十回生もまた上手に盛り上がる事ができたのではないのでしょうか。

さて、エネルギーで笑顔あふれる皆さんの顔の先に残った表彰結果を、お知らせします。

## クラス総合 第三位 四組



## 大縄跳び 第三位 二組



## 女子四×一〇〇リレー 第一位 四組



リレーの写真でなくでごめんなさい・・・。

## 女子一〇〇m 第一位 三組 栗林 夏帆 第三位 三組 前田 千湖



## 男子一〇〇m 第一位 四組 辨吹 陽希



良い体育大会であったと思います。  
代休を利用してしっかりと切り替えて、一生懸命  
やった先に得た達成感を、自分を磨くために生か  
していきましょう。

## 残念な話

二期期が始まって早々、大変残念な、大変申し訳ない事案が発生しています。

登校に使用している一年生の自転車数台に、いたずらされたと思われる形跡が見られました。

事案の確認場所は山崎のバス停留所であったり、本校自転車置き場であったりと様々ですが、共有する生活空間でこのようなことが起こり、とても残念です。

再発防止策の一つとして、一学年の自転車置き場を他学年と同じ送迎場そばの空間に変更して、私達の目の届くスペースをまずは圧縮します。

それにより、外部の人のいたずらである可能性を少しでも除外されるように対応したいと思います。

ともに学ぶ仲間を疑ったりすることがないような「学びの空間」を用意することが、私達がやるべき一番大切な仕事なのですが、いまそのことで皆さんを不安に貶<sup>おとし</sup>めていることを申し訳なく思います。

いましばらくの間、見通しの良い場所に駐輪して自転車も含めて自分の身も安全で安心を確保できるように、協力をお願いします。

## この一字 十月編

入 学 時	『縁』
五 月	『探』
六 月	『声』
七 月	『触』
一学期末	『律』
二学期始	『笑』
十 月	『育』

お客さん扱いが多かった一学期に比べて、二期期は山高生として、学校内外の行事にも主体的に参加することが増えてきていると思います。

自分の行動には、今まで以上に責任が求められることが増えてきましたね。

一方で、皆さんの目から見て「大人」の行動を、少し崩した、崩れたものと捉えて、自分の行動や姿に、悪く言えば目を引こうとする様子も多くなっているようにも思えます。

一対一で話をすれば、「大人」になっている様子もうかがえます。だからこそ、「今」が自分

## 『育』

てるチャンスでもあり、機会を逃す場面でもあると思います。

いずれにしても、自分に対する「責任」は、自分

## 世界陸上2025より

でしか取りようがないのです。

今を去ること三十四年前に東京で、十八年前には

大阪で、世界陸上競技選手権大会が開催されました。

過去二回は、日本人の活躍というよりも、世界の

有名選手の活躍に触れるといった大会でした。

大阪大会では、部員と観戦に訪れました。卒業生

は、男子一〇〇m決勝で優勝した選手のそばで競技

役員をしていたのですが、日本人選手がどうこうと

いう話が話題になるようなことはなかなか・・・。

それから十八年。今回の大会では、陸上競技関係

者のみならず、皆さんの中にも多くの感動を得た人

も少なからずいたのではないですか。

学年通信という誌面で取り上げるのも何ですが、

幾人かの選手の発言を紹介します。

成長過程にある、それも伸びしろがたくさんある

皆さんに、何かが伝わればと思います。

三〇〇m障害 第八位 三浦龍司選手

(最後の直線で他選手からの妨害行為?)

悔みの気持ちはもちろんある。けど、これがサン  
ショーなのかな。これが醍醐味であり、難しさでも  
あると思う。

長距離種目はオープンレーンで、接触のリスクは  
どうしてもつきまとう。レースの醍醐味とどうにか魅  
かでもある。

と言いながらも、レース直後のチームスタッフを  
前にした時には、スタッフと抱き合いながら悔し涙  
を流す姿の映像も良く流されていました。

一一〇mH 第五位 村竹ラシッド選手

(昨年のパリ五輪に続き世界の五位入賞も)

何が足りなかったんだろうなって。何が今まで閥  
違っていたんだろうなって。パリ終わってからの一

年間、本気でメダル取りに一年間、必死に練習して。

本当に何が足りなかったんだろうなって。

自分の脚がもつかぎり、何年かかってでもメダル

取りたいとやう思いました。

兵庫県ゆかりの世界選手権代表選手も数多く出場  
していました。なかには話をしたことがある選手も

いましたが、どの選手も年を重ねるなかでの成長を

感じ取ることができて、それでも、いつまでも競技

者の心・勝負心が滲み出て、高校生当時と「変わら

ない」ことが大変うれしかったです。

さて皆さん。今の自分を越えていくことって格好  
良いって思いませんか。